

2015年11月1日発行  
第584号(通算)  
発行:奇数月1日  
会員購読料:1月10円(年間60円)  
一般購読は別途送料

# 環境と健康

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~  
広島県環境保健協会

佐藤 均  
広島市中区広瀬北町9番1号  
郵便番号 730-8631  
電話 082-293-1511番  
振替口座01380-2-27511  
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

## 平成27年度環境啓発ポスター・標語コンクール

### 小中学生から3万7千点の応募

10月5日、「平成27年度環境啓発ポスター・標語コンクール」選考委員会が公衆衛生会館で開催され、今年度の入選作品70点(ポスター36点、標語34点)が選定されました(入選作品は2面参照)。

### 受賞作品70点が決定

10月5日、「平成27年度環境啓発ポスター・標語コンクール」選考委員会が公衆衛生会館で開催され、今年度の入選作品70点(ポスター36点、標語34点)が選定されました(入選作品は2面参照)。

### ◆東海委員(標語)

みすみす感性豊かな作品が多く、とても驚きました。たった17文字の中に、地球を愛する素直な心、環境を改善していくこととする決意が書き込まれていました。力作ぞろいでの審査は難しかったです。受賞を左右した

### ◆内田委員(ポスター)

今回は、県内の応募作品数の増加に伴い、各公衛協からの推薦作品も多く寄せられました。また、テーマや題材も今までにない新鮮な子どもらしい視点の作品が多く見られました。しかし、賞に値する素晴らしい作品にも関わらず、キャッチコピーの文字に誤りがあるなど残

### ◆西田委員(ポスター)

各町公衛協の第1次審査を経た283点だけの地球環境への思いのこもった力作ばかりでした。ポスターに込めた思いがけない、環境にやさしい暮らしにつながることを期待しつつ、選考に当たりました。学年が上がると絵の技量も格段に巧みになっていきますが、ポスターとしての魅力は必ずしも絵の巧拙に比例しないところが、今回

### ◆菅川委員(ポスター)

今年も、子どもたちの素直な感性がきらきらした作品がたくさん集まっていました。毎年こんなに多くの子どもたちが、夏休みの宿題のひとつとして環境ポスターに取り組んでくれることは、とてもうれしいことだと思います。今年のポスター作品は、全体的に「ごみのポイ捨て」や「自然を守る」という内容のものが多かったように思います。自分たちが住んでいる地域の環境を守りたい、という気持ちがとてもよく伝わってきました。

昨年引き続き「私たちがすむ地球を守ろう」をテーマに募集を行ったところ、23公衛協から、小学校231校、中学校51校が参加。今年度は、参加学校数、作品数ともに昨年度より大幅に増加し、ポスターは1万6182点、標語は2万0849点が各公衛協に集められました。これら約3万7千点の作品は、各公衛協で選考され、ポスター283点、標語335点が当協会に推薦されました。

選考委員会では、公衛協の推薦作品618点から70点の受賞作品を選出しました。推薦作品には、子どもたちの純粋な気持ちや思いが表現された感性豊かな作品が多くみられました。作品の選考にあたっては、6人の選考委員がポスターと標語に分かれて審査を行いました。選考委員のコメントは次のとおりです。

◆森嶋委員長(標語)  
今年度も多くの子どもたちが多彩な表現力で、さまざまな地球の姿や日々の暮らしを見せてくれました。子どもたちの豊かな感性にはいつも驚かされます。標語は説明するものではありません。言葉が人々に感動をもたせていくものだと思います。今回は新たな感覚の作品が多く見られ、標語本来の在り方に歩み進んだように感じます。

◆務中委員(標語)  
今年も楽しく選考させてもらいました。子どもたちの感性豊かな表現と、テーマに合った新しいキーワードに関心を示されたからです。標語は説



### 部門別受賞点数

ポスター	小学校低学年の部	最優秀賞1点、優秀賞3点、奨励賞7点
	小学校高学年の部	最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞10点
	中学校の部	最優秀賞1点、優秀賞4点、奨励賞4点
標語	小学校低学年の部	最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞5点
	小学校高学年の部	最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞11点
	中学校の部	最優秀賞1点、優秀賞3点、奨励賞5点

### 琴線歌

過去にノーベル賞を受賞した「寄生虫の駆除に極めて有効な抗生物質」をつくることを発見し、それを「エバメクチン」と名づけた。さらに米国大手製薬会社との共同研究により、その化学構造を一部変えた「イベルメクチン」を開発した。この抗生物質が、蚊やブヨが媒介する「オンコセルシ力症」や、「リンパ性フィラリア症」に効く、世界で最も汎用される薬剤となっている。ちなみに、オンコセルシ力症は河川盲目症とも呼ばれ、アフリカをはじめとする熱帯地域に多い感染症である。イベルメクチンにより救われた人は3億人を超えている。仏国パストゥール研究所の創設者、パストゥールは「感染症の撲滅」に生涯を捧げたが、大村先生も同じ考え方で研究にまい進されたことは、私の研究生活に大きな刺激を与えた。5日の記者会見で「微生物の力を借りているだけ」との大村先生のお話に、謙虚さと爽やかさを感じた。

### 2015年のノーベル医学・生理学賞によせて

特別栄誉教授の大村智先生が、「ノーベル医学・生理学賞の受賞者に決定」とのニュースを知り、正直言って驚いたが、同時にとても嬉しかった。なぜなら、大村先生と同様に私も抗生物質をつくる「放線菌」を研究対象とし、同じ日本放線菌学会会員でもあるからである。既に、放線菌の研究歴は40年以上で、私のライフワークでもある。大村先生は、1979年、土壌から分離した放線菌の一菌株が



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~  
**広島県環境保健協会**

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)  
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~  
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

